



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (22) 7207 番

'96, 2, 27 No. 4349

第3次廃止(売店・J C店)に伴い

再配転を弾劾する!

強制配転者を 現職に戻せ!

「運転士は欠員状態
運転士に戻せ」

二月二三日以降、千葉支社は、今年度の第三次の売店・J C店廃止にともなう配転の発令を強行してきた。

配転の内訳は、
東船橋J C店三名

↓習志野電車区三名

船橋なのはなソバ店一名

↓船橋駅一名

茂原駅J C店二名

↓幕張電車区一名

↓茂原駅一名

というものであり、またしても「たらい回し」の再配転を強行したのである。

六名のうち四名が運転士からの強制配転者であり、この間の運転士の欠員状況や臨時列車の闇雲な増発により発生している年休抑制等を見れば、当局の都合で売店・J C店を廃止したのだから、元の運転士に戻すのは当然のことといわなければならぬ。

当局でさえ今年度の運転士の需給状況は欠員であることを認めている以上、もともと運転士である強制配転者を戻せば問題は簡単に解決するのだ。

「通勤距離も無視し
駅からの配転を強行」

また、この売店からの配転と同時に、駅から他駅・検修等への配転が行なわれた。

内訳は、
君津駅一名

↓木更津支区検修一名

千葉駅一名↓幕張電車区一名

佐倉駅一名↓西千葉駅一名

というものである。

この異動は、本人の希望とは全く相容れないものであり、通勤距離も全く無視しての配転である。絶対に許すことはできない。

「JR総連解体・一掃
配転者を守りぬこう」

国鉄分割・民営化以降一〇年経った今も労働組合としての原則を貫いている動労千葉を潰すこともできず、唯一JR総連革マルと結託して労働者をもてあそぶ会社がこの世界にあるだろうか。

しかし、追い詰められているのはJRでありJR総連革マルのほうである。松崎のこの間の発言を見よ。「ストで解決できるほど世の中甘くない。ストよ

り理性である」「従来の賃上げはもう無理である」「賃金は半分でいい」「利益を上げるのは戦争だ」「軍需産業でもなんでもやっつて、食っていけるようにしなければいけない」などと講演して歩いているのである。JRからの切り捨てに怯えるJR総連革マルは、ついに軍需産業を提唱し、自らの延命だけに汲々として有様である。こうした状況は、この間の動労千葉や一〇四七名を先頭とした国労闘争団の頑張りが生み出した情勢である。

強制配転された仲間を動労千葉全体で守りぬぎ、強制配転粉碎!原職復帰へ闘いぬこう。



当面する行動

三月八日 組合事務所公判

(津田沼支部、荘司支部長承認調べ)

三月一五日 動労千葉総決起集会